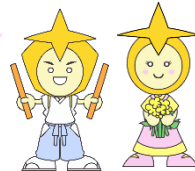




南小だより



柳井市立柳井南小学校

令和7年10月号

文責:校長 吉中 孝志

◇学校教育目標:「やさしく かしく たくましく ふるさとを愛する 南っ子の育成」

◆「明るい気持ちで全力チャレンジ」の秋です!!

このキーワードは、子どもたちが話し合って決めた「チャレンジ目標」の1つです。実りの秋でもある2学期は、この「全力チャレンジ」の場がたくさん用意されています。学校での子どもたちの「全力チャレンジ」の様子をお知らせします。

まず「学問の秋」。どの学年も学習に一生懸命取り組んでいます。2年生は、現在九九の暗唱を行っています。教室を出て職員室にいる教職員に暗唱を聞いてもらい合格めざしてチャレンジしている姿が見られます。



そして「文化の秋」。小中音楽祭やかがやき発表会に向けて太鼓「皆波」の練習が始まりました。午後になると体育館から、太鼓の響きや児童の元気な声が聞こえてきます。



そして「スポーツの秋」。10月17日(金)に行われる陸上記録会に向けての練習が行われています。先日、本校(旧阿月小)出身の中学校の先生に来校いただき、陸上運動の指導をしていただきました。1・2・3年生は、かけっこが速くなるためのコツを、そして4・5・6年生は、ハードルをスムーズに走るコツを学びました。専門的な見地からの指導と地域の大人とのかかわり両面が実現でき、とても有意義な時間となりました。今回の学びがこれからの場できっと生かされることと期待しています。



◆楽しくチャレンジしてきました。

9月25日(木)・26日(金)、山口県由宇青少年自然の家(山口県ふれあいパーク)で小田小学校と合同での1泊2日の宿泊体験活動研修を5年生対象に実施しました。

「学校で学べないものを身に付けよう」をテーマに、*1AFPY や勾玉づくり、ウォークラリー、野外炊事などの体験を行ってきました。小田小学校児童との協働活動、共同生活のなかで親睦も深まり、小学校同士の連携も進めることができました。



*1AFPY (アフピー):「Adventure Friendship Program in Yamaguchi」は、子どもたちの豊かな人間関係を育む手法の一つで、山口県内の学校教育、社会教育で活用されています【右写真上段】。

◆お知らせ(地域連携)

(1) 9月25日(木)に阿月地区、10月2日(木)に伊保庄地区で行われた敬老会に参加させていただきました。それぞれの会場で代表児童による高齢者の方々への作文を発表し、児童自身の祖父母のみならず、地域の高齢者の方々へ向けて感謝の気持ちを表しました。児童は、大勢の人を前に発表することにとっても緊張していましたが、このような経験が児童を精神的に強く、大きくします。ひと回り成長させていただき、ありがたく感じています。



(2) 10月4日(土)に「第40回伊保庄地区三世代交流大運動会」が行われました。当日はあいにくの雨模様であり、場所を体育館に移しての開催となりましたが、多くの参加者があり盛り上がった運動会となりました。本校からも児童が運営のお手伝いをしたり、競技に参加したりと伝統ある地域行事にかかわる機会を得ました。また役員でご協力いただきましたPTAの方々にも感謝申し上げます。



(3) 第2回学校運営協議会の熟議において、学校と地域が共に協働してできることについて委員会単位で意見を出し合いました。出てきたアイデアの中で実現可能な取組から始めています。運営委員会では、お昼の放送の中で、地域の行事などの呼びかけを行っており、本校の委員会活動の活性化にも結び付いています。もし、地域等で児童への呼びかけの依頼があれば、学校へご連絡ください。



◆保護者・地域の皆様と考える～校長のつぶやきからⅡ～

本号でお示しのように、学校では児童のチャレンジの場面を多く設定し、「やさしく かしく たくましい 南っ子の育成」を。併せて、そこに多くの保護者や地域の方に関わっていただき、「ふるさとを愛する南っ子の育成」と地域の活性化の相乗効果を目指しています。

チャレンジには”失敗“が伴います。そして、子どもたちは大人が思う以上に”失敗“を怖がりません。よって、学校は安心して失敗ができる場を提供することが大切であると感じています。そのため、以下の三点を子どもたちに示していきたいと考えています。

(1) 「本番は、練習よりも上手いかない方が多い」ことを理解させる。

＊これが理解できれば、本番で満足する結果を得るために、練習にどう取り組めば良いかを学びます。

(2) 「失敗は成功のもと」を体現させる。

＊失敗することで「何が原因で失敗したのか」「どうすれば失敗が少なくなるのか」を知ることができます。

チャレンジした上での失敗は、決してマイナスにならないことを伝えたいものです。

(3) 「大人になってもチャレンジの連続である」ことを大人の姿で示してやる。

＊大人がチャレンジする姿(格好良い姿だけでなく、失敗する姿)を見せることが何より説得力を増すものとなります。



学校と保護者、地域が力を合わせ、子どもたちの「全力チャレンジ」への伴走支援に取り組んでいけたらと思います。どうぞよろしくお願い致します。

＊白黒印刷の関係で写真や資料等が見づらく申し訳ありません。学校ホームページには、学校だよりをカラーで掲載しています。そちらで児童の表情などもご覧いただければ幸いです。